



- 解決すべき課題
 さまざまな立場の違いを超えて、地域を挙げた議論を行うコミュニケーションが存在しない→地域の自立的経営が困難
- 課題解決のための仕組み
 『ひとりひとりが対等な関係で参加し、データやファクトを踏まえて責任を持って意思表示し、相互参照できる』
 信頼構築のコミュニケーション
- 仕組み/サービスが必要とされる必然性
 SDGs, Society5.0, DX, ポストコロナウイルスへの対応など、地域を挙げた議論に基づく地域の自立と持続性の確立が急務

『ポリネコ!』の
 背景①-④

誰もが、いつでもどこでも社会と地域課題について知り、学び、考え、意思表示することで国民的議論、地域を挙げた議論を実現する
 課題解決型コミュニケーション=『ポリネコ!』（複数の特許に基づく新しいデジタル民主主義コミュニケーション）

① 分断されている私達

立場を超えた意思の疎通が困難になって
 います。
 地域が目指す共通目標の確立が、できません。



地域社会に**ビジョン**が共有されない
 行政-住民間で『**信頼**』が育まれない

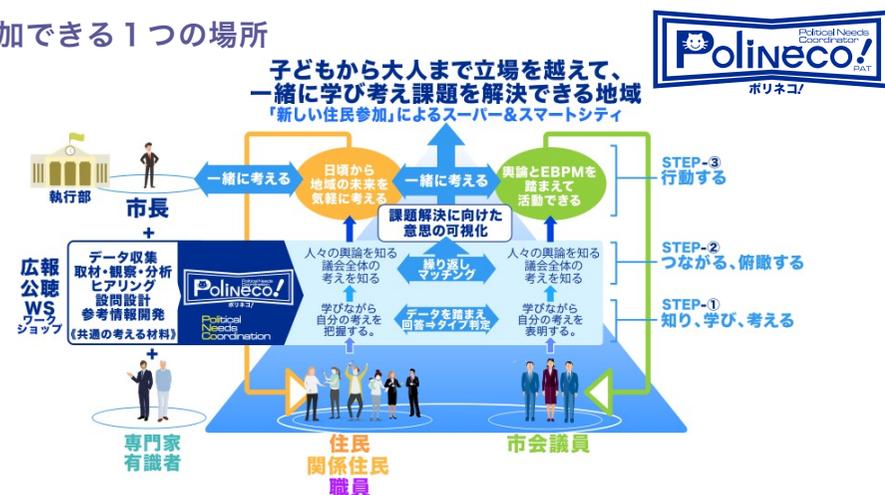
② 機能不全のメディア環境

テレビ、新聞の社会への影響度は低下しており、回答者が問われている事象の背景を知らなくても回答できる世論調査が民意となる等、社会課題をじっくり考える環境そのものがない。

与党内会議（非公開）の強い影響による国会の機能不全	
テレビ ・視聴率低下 ・視聴層の高齢化	新聞 ・発行部数減少 ・1世帯0.61部
ハイウォール（有料課金）の壁=情報格差	
世論調査 ・知らなくても回答できる	ネット ・極端な意見が目目されるSNSの構造 ・取材力の低さ
地方自治体の広報・公聴 ・約80%の市、町で効果検証なし ・実質的な機能不全	

③ 誰もが参加できる1つの場所

そこで、『ポリネコ!』を提供します。
 現在の情報環境でバラバラである立場の異なる人々が、1つのコミュニケーションにメリットを得つつ参加できます。



④ 相互理解が進む私達（社会）

すると、データとファクトに基づくお互いの考え、意思を知ることができるようになります。
 この体験を重ねることで、地域課題の解決や共通目標=ビジョンの確立が、可能になります。



地域社会に**ビジョン**が共有される
 行政-住民間で『**信頼**』が育まれる

- 『ポリネコ!』では、記事や動画を読み、視聴しつつ (①)、回答プロセス (②-④) で認知ギャップを最小化した上で意思表示することができます。
- 他の回答者の回答も相互参照すること (⑥) ができ、国会や地方議会とのシンクロ率を確認すること (⑦) ができます。
- このプロセス (⑧) によって、データやファクトを踏まえた輿論による地域を挙げたコミュニケーションが実現できます。(特許取得済み)
- 従来のニュース、広報では、記事や番組を読んだり視聴することに留まります。情報の受け手(購読者、視聴者)が社会課題の解決に参画することができない技術的境界を『ポリネコ!』によって克服することができるようになります。
- 利用者は、政策や社会課題ごとに自分と同じ考えの政治家や回答参加者の状態を確認し、エビデンスを踏まえた上での建設的な議論、交流ができるようになります。



実在性が担保された匿名回答 (性別、年代、居住エリア、回答履歴)

『ポリネコ!』の基本インターフェース

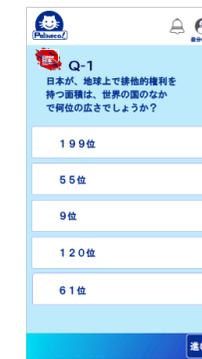
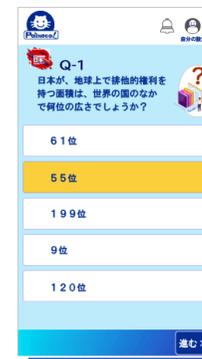
画面は開発中のイメージ

データやファクトを踏まえた意思表示が可能になります。

現状では、主観や先入観、思い込みで回答できる世論調査が主流ですが、このプロセスにより熟考を踏まえた輿論調査が可能になります。

①国民/住民に知ってほしいデータやファクト

②データやファクトへの理解度確認



ニュースサイトと同様の記事(動画含む)を集積し提供

記事を読んで、その先の顧客体験として回答参加と意思表示の機会を提供

アイコン(ネコの箇所)から設問についての紹介文を表示(ログイン画面を挟む)

正解のある設問(数問から数十問を提示)

社会課題に関連するデータやファクトを設問を通じて確認、学習できます。回答すると参考情報が表示され、その参照の上で、再回答を行います。この過程で情報不足で意思表示する状態を予防する

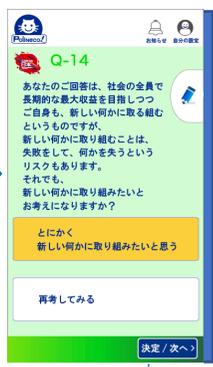
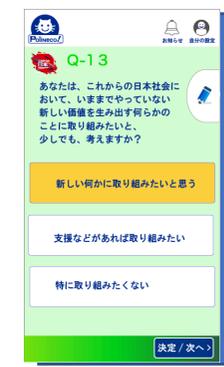
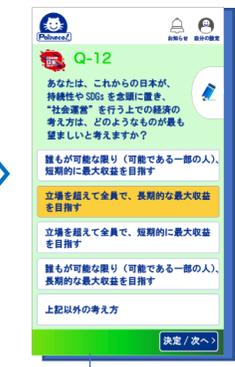
正誤の情報から理解度を表示一定の理解度の上で先に進めるかの判定の他、戻って回答するおさらいも可能

③データやファクトへの一定の理解度の上での意思表示

④意思表示をタイプで確認

⑤回答者が社会、行政に伝えたい意思

⑥意思表示の俯瞰的確認

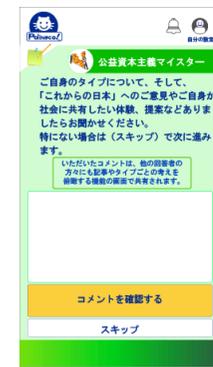


正解のない設問(数問を提示)

データやファクトを踏まえた上での、回答者の考えを確認。選択から予想されることも示すことで、強度の高い回答を回答者から引き出す



②と③の回答に基づき回答者の意思を回答タイプとして表示。メリット、デメリット両面を表示。再回答も可能



自由記入の形式で回答者が任意に意見を入力可能。入力内容はテキストマイニングで分析



回答状況全体を回答者の属性(無作為抽出、会員、議員、専門家等)ごとに表示



回答状況を回答タイプごとの『色』で俯瞰する形で確認できる。よう表示

『ポリネコ!』の基本インターフェース

画面は開発中のイメージ

自分とデータ等を踏まえた同じ考えの人々を確認することで社会、地域への信頼が醸成されます。

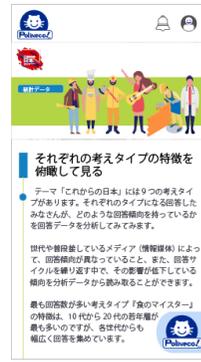
⑥ 意思表示の俯瞰的確認



回答者の属性ごとの回答状況を俯瞰確認可能



登録された郵便番号に基づき地域別の回答状況を俯瞰確認可能



他の回答者の考えを分析記事として読むことで俯瞰



⑤に寄せられたコメントを読むことで他のタイプの意見も知ることができる

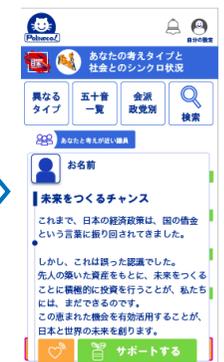
⑦ 議会（政治家）との連携（テーマに応じて選択）



議会全体とのシンクロ状態を表示



同じ考えタイプの議員を一覧表示
五十音や異なるタイプの表示などにも対応



議員ひとりひとりの回答コメントを確認し、レスポンスを送ることができる
(建設的なやりとり)

⑧ 回答参加俯瞰的確認を踏まえたアクション



回答結果を確認すると表示されるアクションの画面
SNSへのシェア、知人の招待、無回答議員への回答リクエスト（一定数貯まると取材申し込み）のほか、地域版の場合、地域商品券等との連携が可能。テーマの受付も行う



次のサイクルへ



メール配信・プッシュ通知
(回答サイクルの運用)

- ・考えタイプごとに設問を配信し再集約することで、各タイプに持つ懸念、不安に対応した合意形成を実現
- ・属性ごとのメール配信にも対応きめ細かい政策形成を実現
- ・このサイクルにより、誰ひとり取り残さない社会を目指すコンセプトSDGsにも対応できる政策形成、地域経営を実現

継続的なコミュニケーションサイクルが、社会、地域の課題解決を可能に

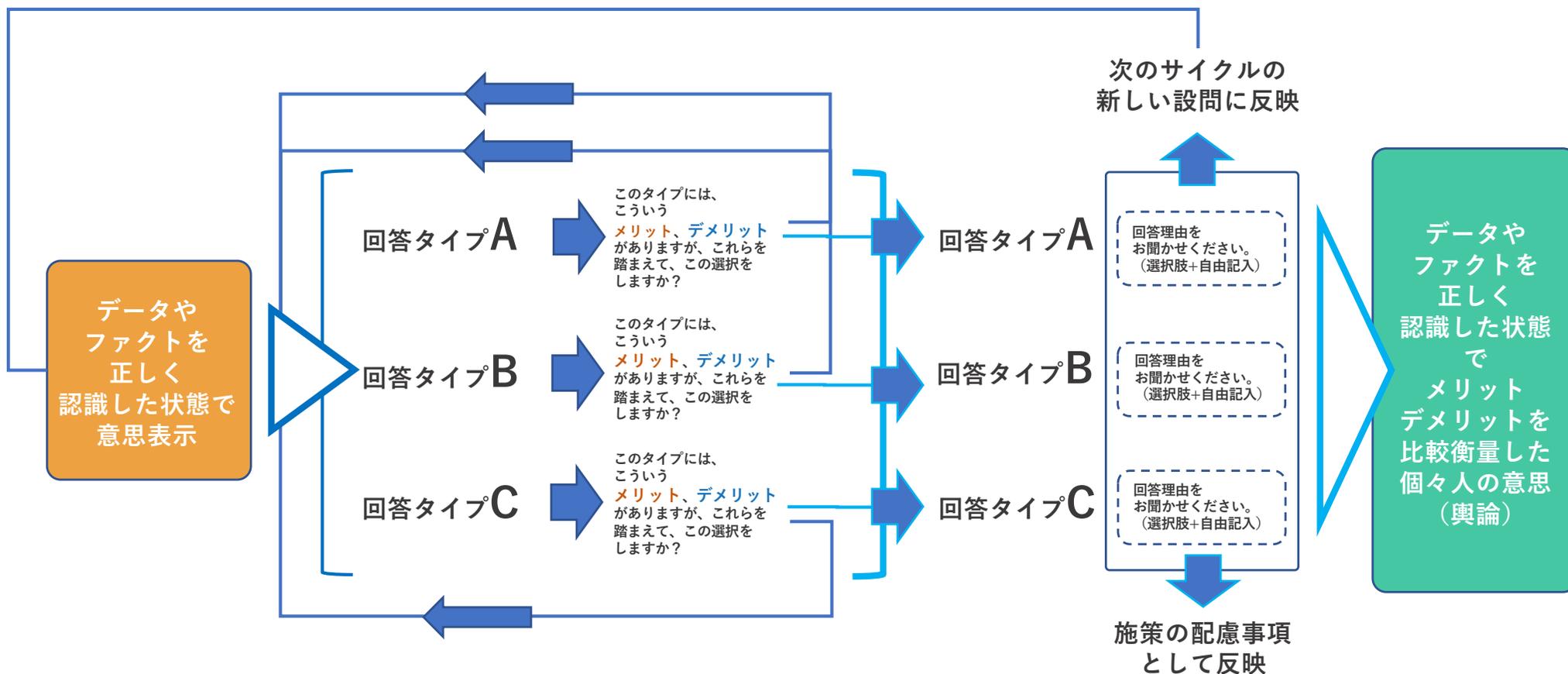


『ポリネコ!』の回答サイクル



回答された意思と回答サイクルを通じて対話（問いかけ&回答）を繰り返す（サイクル）ことで、強度の高い意思形成を実現します。

データとファクトを踏まえた意思表示について、メリット・デメリットを示すことで、回答者は熟考を行います。他の回答者の回答動向も参照した上での再回答も可能です。このプロセスを経た回答によってメリット・デメリットの比較衡量を経た意思表示が可能となります。



『ポリネコ!』と既存手法の比較

『ポリネコ!』は広報・公聴、アンケートなどの調査手法の弱点を補完し、住民-行政間の信頼形成に対応する行政コミュニケーションの最適化を実現します。

	 ポリネコ!	広報広聴、アンケート
1.学習機能	あり 回答プロセスで学習して知ることができる	なし 知らなくても回答可能
2.双方向の フィードバック	あり 回答からフィードバックが受け取れる	なし 基本的に読んでおわり、回答しておわり
3.相互理解の設計	あり 共通の予備知識、自分以外の回答を参照できる	なし 予備知識の差、自分以外の回答が見えない
4.議会/議員と	つながる 選択式の議員回答で、一緒に意思表示できる	つながらない 飽くまで参考情報
5.連続性/継続性	あり 回答履歴を参照した設問など、続くやりとり	なし 基本的にその時限り
6.主権者としての 輿論の意思表示	できる 学習を通じた熟慮を経た意思表示が可能	できない 世論⇌感情としての意思表示にとどまる
7.関係住民対応	あり 関係人口など市外の関係者の参加が可能	なし 住民票の登録者が基本的な対象

住民-行政間の
信頼が育つ
「信頼形成」を目的においた実施

住民-行政間の
信頼が育ちにくい
量を重ねても次につながらない